

## しだの仲間

ジュウモンジシダ・ミヤマベニシダ・サカゲイノデ・ナライシダ  
マンネンスギ・スギナ

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

地球上に40万種以上の植物が生育しているなか、花を持たず孢子で繁殖するしだや苔など隠花植物が約40%を占めると言われています。シダ類や菌類、地衣類は研究が進んでおらず生態など未知な部分が多い分野ですが、林床で地味で渋めな仲間を紹介します。

しだの仲間は、マツバラノ類、ヒカゲノカズラ類、トクサ類、シダ類の4類に分類され、維管束を持ち、見かけ上は普通の植物体ですが、孢子囊を持つのが特徴です。

**ジュウモンジシダ**は溪流沿いの湿った林を好み円形に束生する。一番下の葉が大きく十字の槍を連想させることが由来。

**ミヤマベニシダ**は芽出しの葉柄がピンクや紫で、下半分くらいに鱗片があるのが特徴。

**サカゲイノデ**は、束生し葉柄の下部に大きな鱗片が下向きに付き、鱗片の毛をイノシシ

の手に見立てたことが由来で、孢子囊は黒く八の字型。

**ナライシダ**は、ブナ林などで見かけ葉柄から小葉が互生し卵形で文様が美しく孢子囊は点状。

ヒカゲノカズラ科の**マンネンスギ**は、高山帯の低木の下で見られるシダの仲間。いつまでたっても大きくならない**万年杉**が由来。

トクサ科の**スギナ**もシダの仲間**杉菜**が由来。ツクシはスギナの孢子囊で、孢子葉は六角形です。

夏休み猛暑をしのぐためにクーラーにたより過ぎていませんか？ 日本庭園の美にしだや苔のアクセントが重要なように、「涼」には5感が大事。「水や風の音」「葉のゆらぎ」「森の香り」などしだ類の**未知なる部分**が秘められてるかも！



ジュウモンジシダ



ミヤマベニシダ



サカゲイノデ



ナライシダ



マンネンスギ



スギナ